



自治労連 四国ブロック協議会 香川県事務所ニュース

〒760-0068 高松市松島町1丁目17-10
瀬戸内ビル2F
Tel.087-833-7501 Fax.087-833-7533
E-mail:koumuippan@festa.ocn.ne.jp
http://www5.ocn.ne.jp/~koumu/

2010春闘スタート!!!

1月28～29日京都で開催された第40回中央委員会で、自治労連2010年国民春闘を「職場・地域から変化を確かなものに！」をスローガンに、意気高くたたかいぬく方針を決定しました。発言では最初に、沖縄から名護市長選挙での13年の基地のない北部の振興の強い思いを結集した勝利報告と全国からの支援への御礼で始まりました。全体で29名が、方針提案を正面に受け止め、職場と地域の実態や要求をもとに、住民諸階層との共同を広げ、組織強化・拡大して要求を前進させた感動的な実践報告や意見・要望を発言し、全体の確信となりました。また、平和運動の分野で、5月にニューヨークで開かれるNPT再検討会議への200人参加に向けて、青年部の積極的な取り組みで青年部の再建・結成が地域ブロック・全国ネットで進む「おきプロ」（沖縄プロジェクト）効果に明るい展望を發揮した中央委員会でありました。

2010年は、この間の私たちの運動と国民の世論がつくりだした「政治の前向きの変化」を「さらに大きく政治と社会を変える年」「労働者・国民の生活と自治体職場で『前向きの変化』が実感できる年」にするために第22回組織集会で次の3点を提起しています。

自治体・公務公共関係労働者が「健康でやりがいを感じて働ける職場づくり」を組織強化拡大と結合して前進させること。

地域住民が「安心してらせる社会づくり」「雇用の確保・内需拡大、社会保障の充実」を、職場を基礎に住民とともにめざすこと。

「政治を変えてほしい」国民の期待を真に実現するため、全労連・地方地域労連とともに、「政治の大本(大企業優遇・日米同盟優先)を正す国民的運動」の一翼をになうこと。
香川県事務所において、集団論議を通じて2010自治労連運動を前に進めて行きましょう。

「国民健康保険」学習会開催

1月18日、香川県社会保障推進協議会（社保協）主催で「国民健康保険（国保）」学習会が開催されました。大勢の参加者が、長友薫輝（津市立三重短期大学 生活学科）准教授の講演を熱心に聴き、次週の自治体キャラバンへ向け意思統一をしました。はじめに、長友さんは、国保は助け合いの制度ではなく、社会保障制度の一環であると強調されました。また、もともと国保制度には構造的な問題（被保険者のうち無業者が50%以上・所得200万円未満が4分の3以上）があります。そこへもってきて、国による財源保障が後退（1984年以降）しました。その中で、保険料の負担が増大し、そしてそのことによって滞納者が増え、さらにまた保険料負担が増えるという悪循環に陥っています。

そこで自治体への要望としては、「自治体は国の方針に基づくのか、それとも市民の実態に基づくのか」を問い、そして、そのためにも「市民の実態を把握しているのか」を問いただすことを勧められました。最後に長友さんご自身が関わって昨年10月に行った、大阪の門真市での国保実態調査の報告がありました。そこで、市民の貧困・生活実態を浮き彫りにし、国保制度がすでに破綻していることを明らかにしました。

社保協は、26日～28日三日間にわたり、自治体キャラバンを実施しました。自治体に事前に「国保と介護保険制度の改善を求める」陳情書を送り、自治体がそれにこたえる形で行われました。どの自治体も財政難で要望にはなかなか答えられないとのこと。しかしそんな中でも、綾川町のように「町民100人委員会」を作り、町民の要望を吸い上げようと努力している自治体もありました。

オルグ養成講座開催



全労連四国地区協議会は、1月16日、17日二日間、わたつて松山市の道後やすらぎ荘で、毎年恒例になっている「オルグ養成講座」を開催しました。参加者は約40名（香川からは4名）でした。

一日目は、濱ふきよ（おかやま生協関連・一般労組書記長）さんの講演がありました。濱さんは、おかやまコープでの組織拡大をたいへん積極的にされている専従の方です。正規職員にはもちろんのこと、パートやア

ルバイト、さらには生協職員以外の人に対しても組合加入を勧めていることには感心させられました。

3年前からは特に非正規労働者の組織化に取り組んでいるそうです。まず、各職場の役員が呼びかけて懇談会を設定します。そして、ファミリーストラン、喫茶店や居酒屋などで、組合未加入者から、働いて感じていることを聞かせてもらっているそうです。こちらから一方的に話すのではなくて、この「聞かせてもらう」ということが、相手に信頼感を持ってもらう大切なことなのでしょう。

最後の「やれば必ず成果が出る。やらなければ何も生まれない」「すぐに成果が出なくても、続けることが必要」という言葉に濱さんの強い意志が感じられました。

講演の後、3つの分散

会・分科会に分かれて、活発な討論がおこなわれました。

二日目は、「青年の組織化と次世代育成の課題」と題して、野村昌弘（全労連青年部書記長）さんの講演がありました。

野村さんは、青年らしい視点で組合活動をしていきます。たとえば、チラシひとつとつてみても、今までとは違って明るい感じにしています。また、チラシを配るときには、ぬいぐるみを着たり、バンド演奏付きにしたりと工夫をしているそうです。またそのほかに、お祭り型の集会をするとか、みんなが楽しんで組合活動に参加ができるように工夫しているそうです。

ところで、今の青年たちによく見受けられるのは「自己責任」論に陥っているということですが、これに対しては、きちつとしたデータをもとに、国の政策に大きな欠陥があつて、多くの労働者がつらい立場になつていくことを、知ってもらわなければなりません。今のように労働環境が悪くなつた原因の一つは、1999年の「労働者派遣法」改悪を機に、非正規雇用が急激に増え、賃金が低下したことにあります。

それにもかかわらず、その間、大企業は利益を増やし巨額の内部留保（10年間で約2倍に）を蓄えたといい矛盾もおこりました。

野村さんの考える、現代の青年（青年に限らないのかも）に対するキーワードは、「居場所づくり」と「聞く力」です。このようなことが大切なのは、このごろの若い人たちが、少子化や競争社会のもとで育つていて、人と人とのつながりが希薄になつてきているからです。

野村さんの講演には、単に労働組合の組織拡大に限らず、よりよい社会を作るためのヒントがたくさん含まれていました。

講演の後、全大会となり各県報告、一日目の分散会・分科会の報告、そして全体討論に移りました。

その中で、愛媛のトラック運転手や、高知のコープ（生活協同組合）で働

く人の話などいろいろな業種の実情を知ることができて、たいへん有意義な交流ができました。

<今後の予定>

- 2月9日（火）17：30～「憲法9条」街頭宣伝行動：JR高松駅
- 2月10日（水）18：20～ 「いのちの山河～日本の青空」試写会：高松市民文化センター
- 2月12日（金）18：00～ 大山さぬき市長懇談：さぬき市役所
- 2月12日～13日（土） 10春闘「2・12中央総行動」、全国自治体職場交流会：東京
- 2月19日（金）13：30～ 自治労連四国ブロック（協）第5回幹事会：徳島県事務所
- 2月21日（日）12：30～ 香川県事務所会議・第3回組織集会：香川県事務所
- 3月2日（火）12：20～ 全労連四国地協「四国総行動」：JR高松駅前・パレード
- 3月12日～13日（土） 自治労連「第4回組織拡大専任者研修会」：熱海市